

数字で振り返る岩見沢

262.0 1,112 94,802
5,292 ? 99.2
38,243 5,345



最終回 心の成長に気付ける学校

私たちの日常生活は、気象など身近な自然現象のほか、通学や通勤時の交通、食料品などの買い物、ごみ処理、病院や学校、住まいの快適さなど、さまざまな社会現象と関わっています。こうしたさまざまな現象を正しく理解するため、岩見沢に関する統計数字を過去に遡って紹介していきます。

問合先 庶務課市史資料室（北村支所内） ☎ 56-2001

今月の数字 36 人

昭和30年代、小・中学校の児童生徒数は2万人を超え、厳しい財政状況の下、校舎の整備や教員の確保が課題になりました。昭和33年に学習指導要領や学級と教職員の定員を定める制度ができ、現在の義務教育の枠組みが整いました。

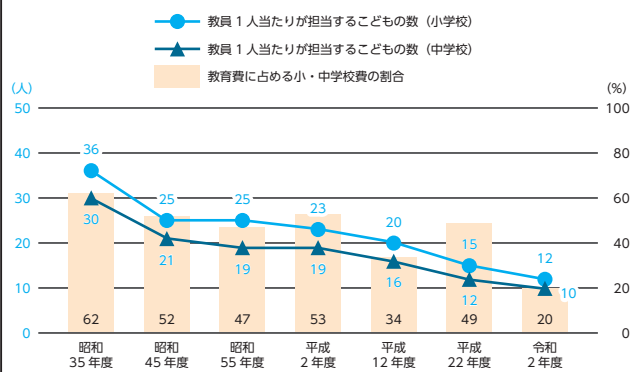
児童生徒数が最も多かった昭和35年、教員1人当たりが担当するこどもの数は、小学生で36人、中学生で30人といずれも現在の3倍を超える人数でした。校舎や教材の整備などに使われる小・中学校費が教育費全体に占める割合は、校舎整備が盛んに進められた昭和35年には62パーセントを占め、その後低下していきませんが、耐震化などに取り組んだ平成20年代に再び上昇し、近年は20パーセント程度で推移しています。

また、昭和40年代から北村・栗沢地区などの農村部を中心に学校の統廃合が進み、統合した学校では吹奏楽やバレーボール、合同運動会や学校祭など特色ある活動が注目されました。その後、情報化や国際化の進展に伴い、情報教育、英語教育、地域と連携した学校運営が進みました。



美流渡地区の小・中学校、保育所の合同運動会（昭和52年6月）

教員1人当たりが担当するこどもの数、教育費に占める小・中学校費の割合の推移



戦後で十分な制度が無い中にできた中学校では、教職員が少なく、お金も掛けられませんでした。卒業する生徒は、何時の間にか心に大きな成長がある事に気が付く、と3年間の学校生活を振り返りました。少子化と人口減少が進む近年、標準的な学級編成の確保、地域の特色ある部活動の継続などが課題となり、こどもたちを取り巻く環境は変化しています。時代が変わっても、こどもたちが共に生き、共に学び、心の成長に気付ける学校にしていけるため、地域全体で支えていく必要があります。

また、昭和40年代から北村・栗沢地区などの農村部を中心に学校の統廃合が進み、統合した学校では吹奏楽やバレーボール、合同運動会や学校祭など特色ある活動が注目されました。その後、情報化や国際化の進展に伴い、情報教育、英語教育、地域と連携した学校運営が進みました。

人の動き（令和7年1月31日現在）

●住民基本台帳 人口 男 34,568 人（前月比－65）
女 39,523 人（前月比－48）
総数 74,091 人（前月比－113）
世帯数 40,377 世帯（前月比－63）

岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（代表）FAX 0126-23-9977

ホームページ

<https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>



X (旧 Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課広報室

広報クイズ

プレゼント

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

スプレー缶、カセットボンベ、乾電池、水銀式の体温計・温度計など、蛍光管、蛍光灯、ライター、充電電池は□□ごみで出してください。□に当てはまる言葉をお答えください。

締め切り 3月21日（金）（必着）

応募方法

はがき（送付先左記）、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-7731）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。2月号の正解は銅でした。

